

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔精肉〕 （店長）	・来客数は増加していないが、これからはBSEが解決に向かい、先行きは若干明るい。
		一般小売店〔鮮魚〕 （従業員）	・納入先からの情報では、5月の連休中の温泉地などの予約状況は前年を上回っている。
		百貨店（営業担当）	・春のファッショントレンドのカラーは白である。従来この色は洋服、雑貨品とも汚れやすいため敬遠され気味であったが、今年は活発な動きがみられる。今後、ファッションを楽しみたいという、遊び心を持った人が更に増えていく。
		百貨店（営業担当）	・気温がまだ不安定なため、本来売れるべきアウター、ジャケットやコートなどの動きが良くない。しかし、3か月後は初夏物の最盛期であり、今年は高品質の商品を求める客が多く見受けられるため客単価は上昇する。
		スーパー（店長）	・春のベースアップが大きく影響するが、商品では上質がキーワードになり、単価は上昇する。
		衣料品専門店（経営者）	・一品単価、客単価共に上昇傾向にあり、買物の中身が従来の一品だけからトータルファッションへと拡大の動きがみられる。
		家電量販店（経営者）	・エアコンの早期販売促進策を実施し、前年比倍増と大きな成果が上がった。企画次第では今後に期待が持てる。
		自動車備品販売店（従業員）	・新卒者やシニア層の来店が目立つ。店舗としてもターゲットを絞り、積極的に提案することにより需要が喚起される。
		その他専門店〔医薬品〕 （営業担当）	・少子・高齢化が現実のものとなり、消費は横ばいもしくは減少傾向にある。しかし、一方では高品質商品の売上増により、単価は徐々に上昇していく。
	一般レストラン（スタッフ）	・ビジネス客、ファミリー客が少しずつ戻ってきている。景気上昇により人の動きが活発になり、来店につながる。また、長い景気の低迷で近隣の競合店が淘汰されたことから、現在営業中の店に客が戻りつつある。	
	観光型旅館（スタッフ）	・4月以降の予約状況は5月を除いて前年を上回っている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・来客数の増加が続いていること、婚礼宴会のハウスウェディングへのシフトが一段落したことなどにより、売上は前年を上回る。	
	通信会社（役員）	・県内民放の地上デジタル放送開始が予定されており、デジタルテレビの購入が加速することから、ケーブルテレビの需要も確実に向上する。	
	テーマパーク（職員）	・雪の影響も収まり、気候も穏やかになり、利用者数は回復に向かう。また、昨年は愛知万博の影響で厳しい状態となったが、今年は前年比ではプラスの効果となる。	
	住宅販売会社（従業員）	・日銀の政策が変わり、金利が上昇すると予想されるため、その前に住宅を買おうとする客が多くなる。	
	住宅販売会社（従業員）	・豪雪の影響もあって客の動きは鈍かったものの、最近では住宅リフォームの照会件数が増加し、期待が持てる。	
	変わらない	スーパー（副店長）	・3月下旬になっても低温の日が続き、春物の拡販にブレーキがかかっている。客はバーゲン時にならないと買わず、しかも必要量だけという傾向が長引く。
		コンビニ（経営者）	・来客数が前年比5%減少している。周囲の景気が良くなったせいも、アルバイトに来てくれる人がいないことも影響しており、この状態は今後も続く。
		コンビニ（店長）	・これから金利が上がるため早めに住宅ローンを借りて家を建てるといった話が来店客から聞かれるが、景気回復の実感はない。
乗用車販売店（経営者）		・車は代替需要がほとんどであり、しかも小型化、低価格化の傾向が当分続く。売上が伸びて、利益が増えるまでにはまだ時間がかかる。	
乗用車販売店（総務担当）		・需要が多かった3月の反動で販売台数の水準は下がるものの、新型のRV車は引き続き堅調な売行きが期待できる。	
住関連専門店（店長）		・主力の新築、プライダル関連商品の伸び悩みが続く。	
高級レストラン（スタッフ）		・予約状況は例年並みである。	
観光型旅館（経営者）		・4月以降は団体を中心に予約数が前年比約10%増加しているが、宿泊単価は低下している。	

		旅行代理店（従業員）	・4月の上海定期便の搭乗率が非常に悪く、4便が欠航の予定である。
		タクシー運転手	・これから観光シーズンに入り、人出が増える時期になるが、県が観光客誘致に力を入れているため、前年に比べて期待が持てる。タクシー台数は多いものの、若干ながら利用客に回復の兆しがある。
		タクシー運転手	・駅前に大型の居酒屋が相次いでオープンし、客の動きも活発であるが、電車などで帰る人が多く、タクシーの利用は少ない。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話の販売は季節的に停滞するが、新機種の発売等で若干の明るさもある。
		住宅販売会社（総務担当）	・商業・住宅地の公示地価の下落率が縮小したとの報道があり、地価の下げ止まり感が見えてきたため今後に期待できる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街の広い範囲で再開発工事が行われている上、大手百貨店が3月末で撤退する。早急に次のテナントが決まらなると、更に悪くなる。
		スーパー（店長）	・6～7月には競合店の出店予定があり、今後ますます価格競争が激化する。
		乗用車販売店（営業担当）	・最大の需要期の3月でも来場者数があまり伸びず、先行きはあまり期待できない。
	悪くなる	商店街（代表者）	・昨年末からの天候不順の影響がまだ続いており、起爆剤がない限り、明るい方向が見えてこない。
		スーパー（店長）	・年内に大手3店舗の出店予定があり、競争激化により苦戦する。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経理担当）	・弱電用部品メーカーからの情報では先行きは明るい。
		輸送業（配車担当）	・荷動きは以前より良くなっているため、今後、軽油が更に高騰しなければ、収益が改善される。
		通信業（営業担当）	・小規模企業から光IP電話の引き合いが多くなり、今まで買い控えていた電話機などと合わせた提案要請が出始めている。今後、設備投資関連の消費が伸びていく。
		会計事務所（経営者）	・製造業の下請企業では単価は安いものの、仕事の量が確保されており、今後も多忙な状態が続く。
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	・原材料価格は高止まりし、その確保も厳しいという環境がこれから半年間は続く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車関連の設備動向では少々弱含みとみられる面もあるが、全体として設備投資の意欲はおう盛である。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・金利上昇、原油価格変動、為替動向など、いくつかの波を経て中・長期的には良くなるが、短期的には変化しない。	
	建設業（総務担当）	・建設資材の値上げや下請業者の価格上乘せなどのコストアップ要因が見込まれ、採算面の悪化が更に懸念される。	
	金融業（融資担当）	・足元の景気は確かに良くなっているが、金利の上昇懸念により企業の資金ニーズがどう変わるのか、先行きはまだ不透明である。	
	やや悪くなる	精密機械器具製造業（経営者）	・産地としては、今後の安定受注を見込んでいるメーカーは一部であり、各社とも依然として先行きは厳しい。
	悪くなる	建設業（経営者）	・当社は3月後半にようやく平成18年度内工期の工事を数本受注できたが、第1四半期の完成工事は微々たるもので、とても固定費を賄える状況にはない。同業者では4月以降に着工の受注工事がゼロの会社も多くあり、倒産が多発する懸念がある。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・企業の採用意欲はおう盛である。ただ、スキルの高い人材は更に減少傾向にあり、今後もアンマッチが続く。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・取引先の求人ニーズに対して、人材の経験不足などで折り合いがつかない状態が続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・企業の求人意欲は高くなってきているが、採用につながらず、継続的な求人が目立つ。新規求人の大幅増加はまだ期待できない。
		職業安定所（職員）	・正規型求人の割合が高まらなると、本格的な景気回復につながらない。
		職業安定所（職員）	・団塊世代の退職の関係もあり、新規学卒求人は増加傾向にあるが、一般の新規求人に占める派遣、請負、パートなどの非正規型求人の割合は依然高めに推移している。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-